

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗妙國寺住職
渡邊泰秀さん

第37回

私は一般家庭の生まれです。高校まで秋田県で過ごしました。小学校から柔道をやっていたので、高校3年の夏に腕を脱臼してしまい、柔道を続けることを断念。そんなとき、祖父母や両親が熱心な日蓮宗信徒だったことから、「お坊さんになってみないか？」というお話をいただき、いろいろなご縁もあり、みんなの力を借りて、お坊さんになる道を選びました。高校卒業後は立正大学へ進み、東京のお寺で修行しながら学びました。その後、当時の妙國寺の住職の夫婦養子になり、1982年に

家族で高知へ移住しました。私は秋田出身、妻は東京出身。高知は初めての土地ですから、最初のころはわからないことばかりでした。慣れないうちは言葉もきつく感じました。土佐弁では「あなたは」を「おまんは」と言います。親しみを込めて呼びかけてくれていたのに、恐ろしく感じて(笑)。でも、土佐の人たちはおおらかで開放的。みんな私たち家族を受け入れ、かわいがってくれました。いろいろなご縁があつてここに来て、諸先輩に教をいただいたて今に至ります。

家族の中でもお互いを敬う 気持ちを持ちましょう

日蓮宗では今、「いのちに合掌」を合言葉に布教活動を行っています。私は法話などで「まずは家族の中から合掌しましょう」という話をします。合掌して「おはようございます」「行ってまいります」「ただいま」。家族の中でお互いに敬いの気持ちを持つことが大切なのです。

今の時代、家の中がバラバラな家族が本場に多い。昔はテレビも電話も家に1台でしたから、よく家族が1か所に集まったものでした。でも今は部屋もそれぞれにあり、テレビも携帯電話もある。子どもがお父さんやお母さんの顔を見なくても何も困らないのです。ごはんを食べるときだけ集まり、携帯をいじりながら食事……もう、

何が家族なのかわかりません。

「ごはんを食べるときはみんなそろって座り、合掌して」いただきます」「ごちそうさまでした」。昔は当たり前だったことですが、今ではまったく忘れ去られています。まずはそうしたことを家族の中から再認識してほしいのです。

人と接するときは 心の中で合掌を

家庭の中心は女性です。まずは皆さんが心がけて、率先してやってみましょう。そうすれば家族も変わります。家族が変われば、それが自然に地域や社会に広がっていきます。近所の人に会ったら、心の中で合掌して挨拶します。そうすれば、心からの「おはようございます」「ありがとうございます」「ごいいます」「ありがとうございます」が出てきます。気持ちよくなっていきますよ。あなたもやってみませんか？

家族や社会の問題には 互いを敬う気持ちが必要です

わたなべ・たいしゅう 1956年生まれ、秋田県出身。1979年、立正大学仏教学部を卒業。同年、世界三大修行の一つともいわれる100日間の厳しい修行「日蓮宗加行所」成満、1997年には五行(5回目の大荒行)成満。1982年、家族で高知へ移住し、妙國寺の副住職に。1993年より住職。日蓮宗高知県事務所長も務める。http://temple.nichiren.or.jp/6091003-myokokuji/



(上) 戦災から焼け残った山門。(右) 11月30日(土)、香川県高松市で「いのりんびつ in 中四国」が開催される。入場無料で各種イベントも満載。お問い合わせは ☎070-5680-3447(事務局)

